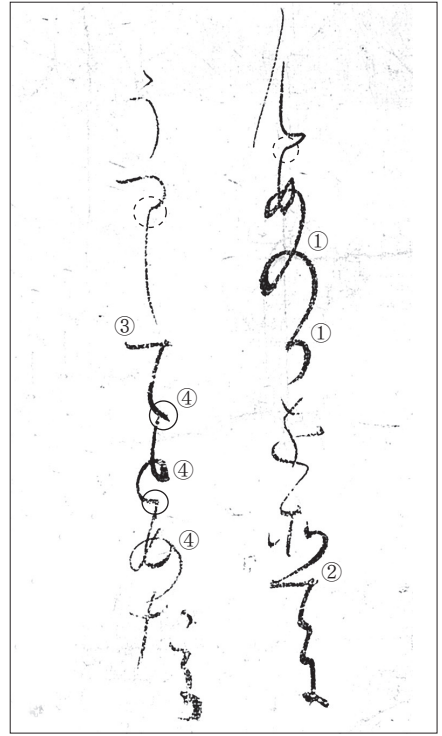


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

寸松庵色紙



- 1、字句〓无<sup>む</sup>め<sup>め</sup>の可<sup>か</sup>を所<sup>そ</sup>て<sup>に</sup>尔<sup>に</sup>う<sup>つ</sup>してとめたら
  - 2、形式〓半紙をたてに使い二行に臨書する。落款は、本文に添う大ききで「〇〇臨」と入れる。
  - 3、概観〓寸松庵色紙臨書の一回目から三回目までは、漢字の臨書学習のように、大筆で大きく臨書して細部を理解することを学んできました。線の方向や筆圧のかけ具合、連綿の仕方などをじっくりと体験できたものと思います。
  - 4、各字のポイント(運筆のリズムの妙を楽しむ)
- 今回は、運筆の回転のリズムを学びます。一行目は右上から左下へ向かう線が連なり、右回転のリズムが生じています。二行目は左から右上に向かう運筆により、左回転のリズムが生じています。その呼応を楽しんでみましょう。
- (1)右回転を意識して
    - 。「め」から「の」、「の」から「可」へ連綿線の方向を一定にする…①
    - 。「を」から「所」への連綿線はあまり強調せず、右回転を想起させる緊張した強目の連綿線を用いる…②
  - (2)左回転を意識して
    - 。「し」は完全に右方向に払い、改めて左の位置より「て」を書くことにより、左回転が始まる…③
    - 。「て」の最終画、「と」「め」の一画目のそりを一定にする…④
  - (3)注意すべき連綿
    - 。「无」から「め」、「つ」から「し」では止まって方向を変える…①
    - 。「て」から「と」、「と」から「め」は、「て」「と」をきちんと書き終えているところに注意…①

(一月二十二日締切)

半紙課題(予告)

平岡華雪先生書

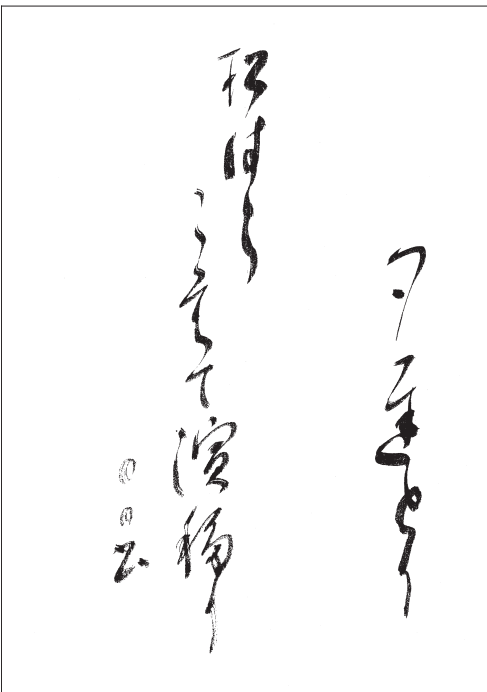
分に安んじて以て福を養う(蘇軾)



訳：自分の分に安んじて福德を養う。

平岡華雪先生書

夕千鳥松原越えて濱移り(花菱)



一字書（十二月二十二日締切）

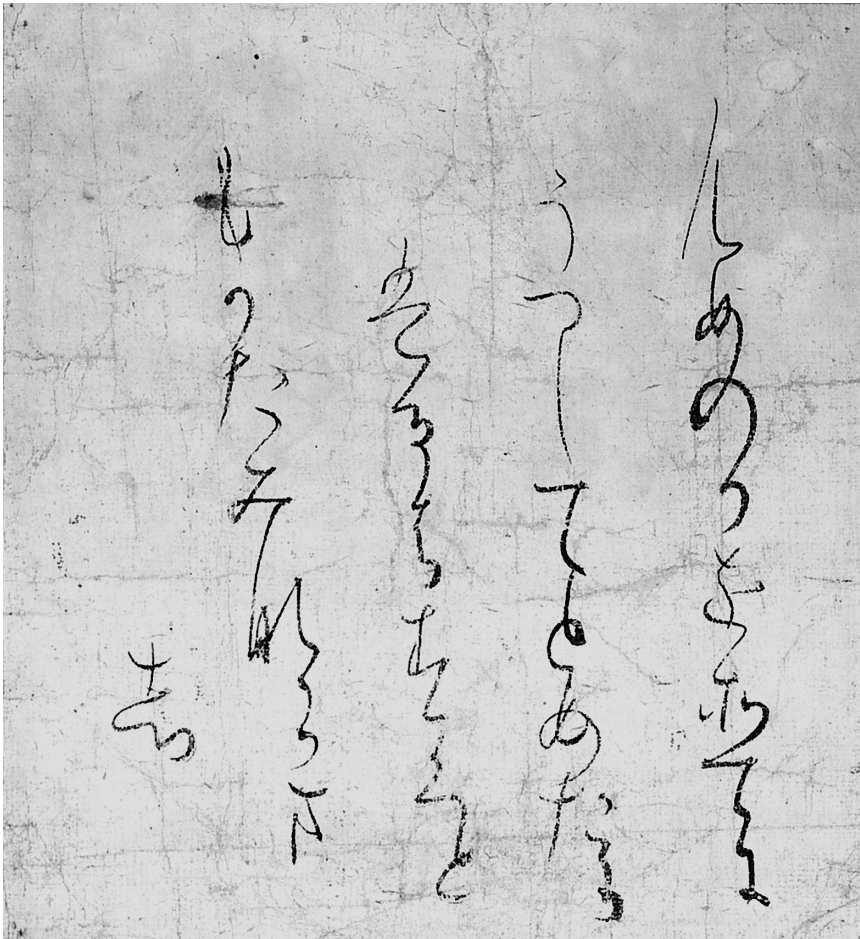
課題

無

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円

創造力を働かせて表現を楽しんで下さい。多くの会員がチャレンジしています。

紙色庵松寸



無<sup>む</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>を<sup>を</sup>そ<sup>そ</sup>で<sup>で</sup>に<sup>に</sup>う<sup>う</sup>つ<sup>つ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>ず<sup>ず</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>か<sup>か</sup>た<sup>た</sup>み<sup>み</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

遠山記念館蔵

# 昇試審査総評

外川 霞夕

今年は何年ほどのきびしい残暑は少なかったものの秋季昇級試験の作品作りにはいつも以上にご苦労があった事でしょう。審査に当たり五名の審査員は真剣に慎重に一点一点拝見いたしました。全体のバランス、線質、墨量、誤字に注意しつつ、表現の豊かな練度の高い作品に期待しながら審査させていただきました。

上位作品は毎月の研究部にも出品され、色々な課題に挑戦され躍動感に溢れた充実の秀作が目につき頼もしく思いました。その反面、条幅作品を書き慣れていない作品も多くあり残念でした。この機会に毎月の条幅課題を参考に書いて出品してみても如何ですか。続けて書く事をお勧めします。次回昇試での良い結果を期待しています。今回も条幅、半紙作品共に誤字がありました。字典を調べ出品する前にもう一度見直して

下さい。

古典（臨書）に取り組み底力を養ったり、よい作品を観に行く事も大切です。益々ご精進下さい。



条幅審査

路川 千暉

九月二十八日、午前十時より秋季昇試の審査が行われました。高橋香樹先生を中心に五名の審査員により、緊張感に包まれながら慎重に進められました。まず条幅（漢字部・随意部）より開始されましたが、やはり上段級ほど充実作が多く、出品者の皆様の精魂込めて書かれた作品からは、その熱意がひしひしと伝わって来る思いが致しました。

しかし、一見よい作品と思える中に、草書体（くずし方）に不備があり残念な作もありました。作品創りの下準備には、惜しみなく時間を使いたいものです。初心に返って字々を丹念に調べてみる事が大切です。その中から新しい発想が生まれ出るかもしれません。

審査では、一紙を貫通する筆線の良さ（強さ、抑揚のリズム、躍動感、墨色の変化等々）に強く心を惹かれます。来期の昇試には、より多くの書き込みを願っております。

## 半紙審査



石原春香先生



内藤香瑤先生



外川霞夕先生



路川千暉先生

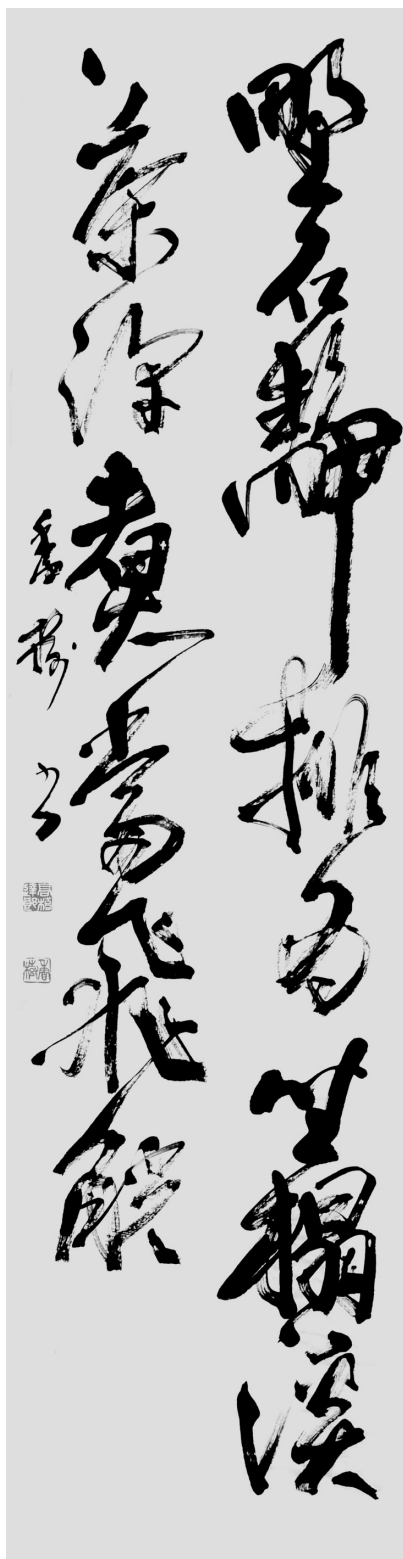


高橋香樹主幹

A

高橋香樹主幹書

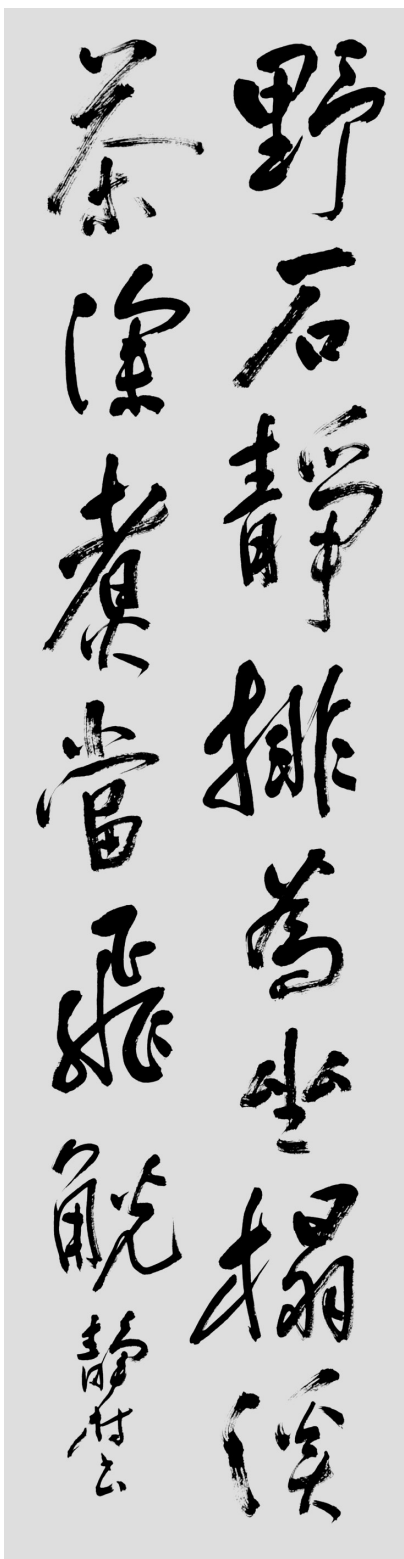
野石静排爲坐榻 溪茶深煮當飛航 (伍喬)  
野石静かに排して坐榻と爲し、溪茶深く煮て飛航に當つ。



B

鈴木静村書

今回は、墨継ぎ以外では全て連綿するという事にチャレンジ。この連綿は、無理があるように見えてはいけません。なるべく短い連綿にすることを心懸けました。と同時に、左右の行の呼応と行の流れもと欲ばりなことと思えることも意識しました。墨継ぎは「坐」と「煮」です。



兼毫四号筆による表出 無理を承知で根元までたっぷりと含墨させた「潤々渴」の三字区切りの構成。四号筆程度の筆で十四文字を二行に書く場合、この手法は思い切りよく、豪放に表出することが出来ます。四字目で墨継ぎとなり、左右の潤々渴は並立しません。初歩段階者には、潤々表出の切り口として是非挑戦を。ただ、筆の大きさ(四号筆より大) 含墨の程度により渴筆の表出は微妙ですから、この点弾力的に対処して下さい。  
訳：野の石のごみを静かに払って腰を掛け、溪の茶をよく煮て互いに飲み交わす。

予告 (一月二十二日締切)

半林残葉迎霜落 三径黄花近節開 (牟融)

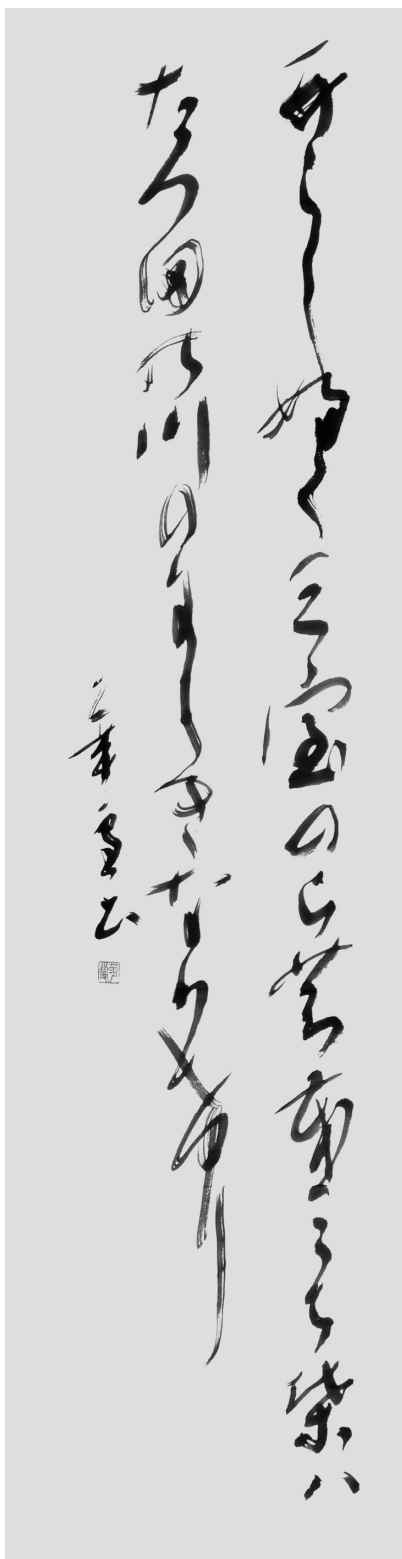
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

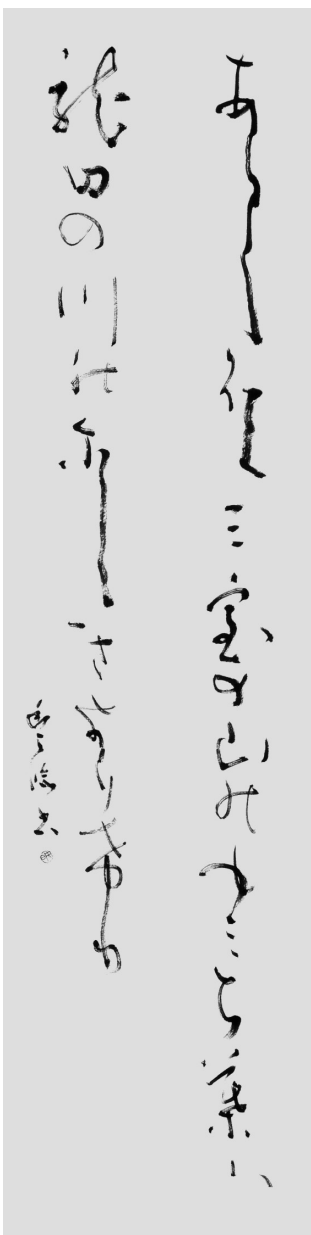
嵐ふく三室の山のもみち葉は龍田の川のにしきなりけり(百人一首 能因法師)  
あらし婦く三室の山農茂三ち葉八たつ田能川の尔しきなり希り



B

吉原豊臨先生書

あらしなく三室の山能も三ち葉八龍田の川能尔しき奈り希り



学び方

華雪先生の作品の出だしの「あらし」は、漢字を用いず平仮名で、柔かく細めに連綿をきかせ、「婦く」で字幅を取っています。「三室」で、一行目の山場を作り、「山農茂三ち葉八」では、変体仮名が多く使われているにもかかわらず、ゆったりと書きこんでいます。二行目、「たつ田能川の尔しき」までは、一行目の「婦く」「室」の字幅を受けて、細くならず、太くならず丁度よい幅におさめています。「なり希り」では、「な」の字幅、四文字の連綿によって最後を飾っています。私の作品では、固有名詞の「三室」「龍田」は漢字を用い、「嵐」「錦」は平仮名を用いることで変化をつけてみました。「の」の字が四回あるので、字を変えてみましたが上下左右の配置の関係でうまくおさまらないことも多々あります。辞書をよく見て練習を重ねてください。

予告 (二月二十二日締切)

あさぼらけ有明の月と見るまでによしのゝ里にふれる白雪(古今和歌集)

歌と作者について  
この歌は後冷泉天皇が開いた内裏歌合で、藤原祐家と競って勝った和歌で、詠われている三室山と龍田川は、どちらも有名な山と川の歌枕。能因法師は俗名を橘永愷といい、文章生として漢字を学んだのち、十六歳で出家した。藤原長能に師事して和歌を学び、漂泊行脚を重ね、また宮廷歌界にも出入りした。中古三十六歌仙の一人。編著に『玄々集』『能因歌枕』、歌集に『能因和歌集』がある。

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

石田 愁華 先生書

雪花被岸中流黑 雲氣涵山衆壑虛 (張公藥)  
 せつかきし おお ちゅうりゅうくろく 雲きやま 壑た 衆がくむな  
 雪花岸を被い中流黒く、雲氣山を涵し衆壑虚し。

雪花被岸中流黑雲  
 氣涵山衆壑虛

愁華書

訳：雪は川の兩岸を掩って中流ばかりが暗く、雲は山を埋めて多くの谷は空虚である。

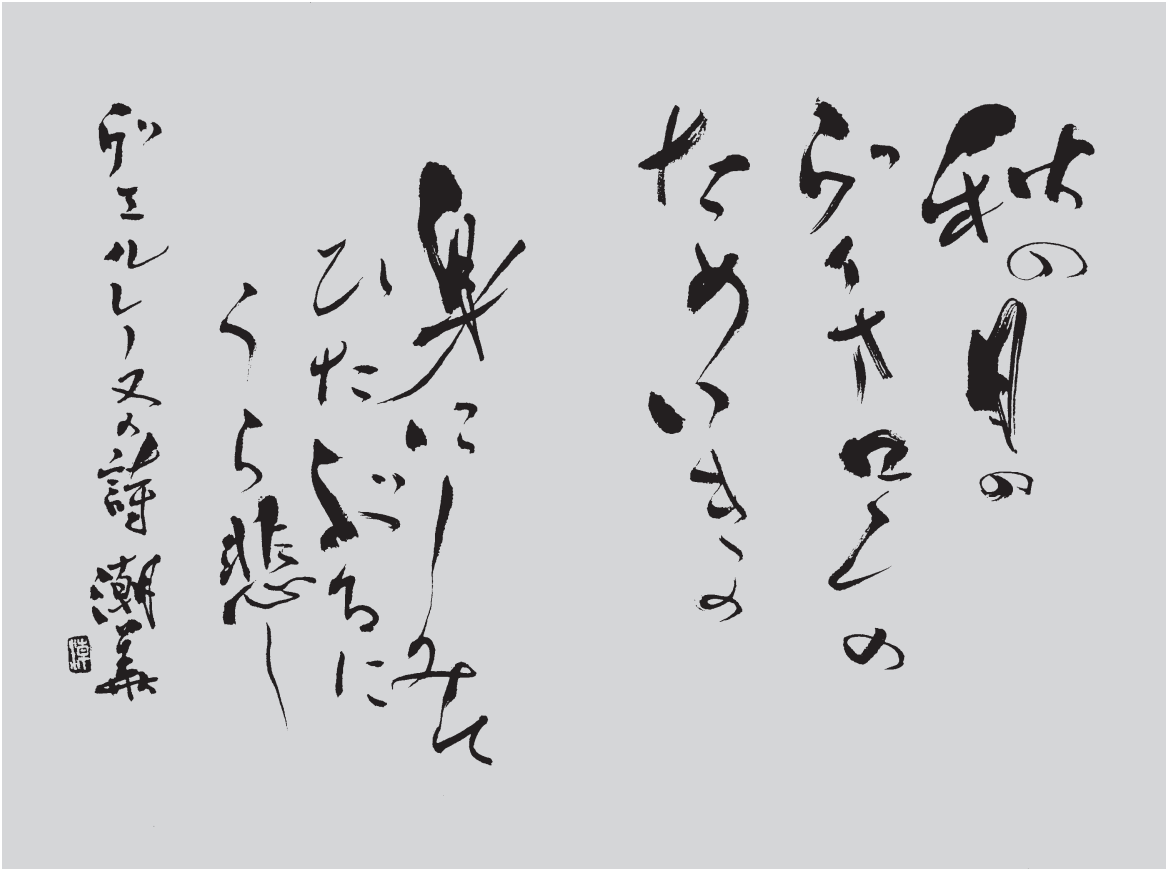
高山 小玉 先生書

夢かよふ道さへたえぬ呉竹のふしみの里の雪のしたをれ (新古今和歌集 有家朝臣)  
 夢かよふみちさへたえぬくれたけのふしみのさとゆきのしたをれ  
 夢かよふ三千さへ多衣ぬくれ竹のふしみの佐と能雪の志多越連

夢かよふ道さへたえぬ呉竹のふしみの里の雪のしたをれ  
 夢かよふ三千さへ多衣ぬくれ竹のふしみの佐と能雪の志多越連

小玉書

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)



水貝 潮華 先生 書

秋の日の  
ヴェルレーヌ作

ヴィオロンの  
上田 敏訳

ためいきの

身にしみて

ひたぶるに

うら悲し

今回は、カタカナ交じりの作品です。

特別に文字の形を作るのではなく、今まで、皆さんが勉強してきた漢字・仮名の中に自然と融け込むように書くことが必要です。私の作品はあくまで参考として、皆さんが詩を読み、感じた心を紙に表現してみてください。

ポール・ヴェルレーヌ

(1844～1896)

フランスの詩人。印象派の代表者。

詩集に「華やかな饗宴」「秋の歌」などがある。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

山色夕陽の時。(槐安国語)  
訳：山色は夕陽の時間が美しい。

〈両行の字配り、調和を〉  
右行、画数の少ない三字。左行は繁画二字。一般的には、右行三字は太めにして力感。左行は鋒先を利かせ、直線味を活かす工夫を。



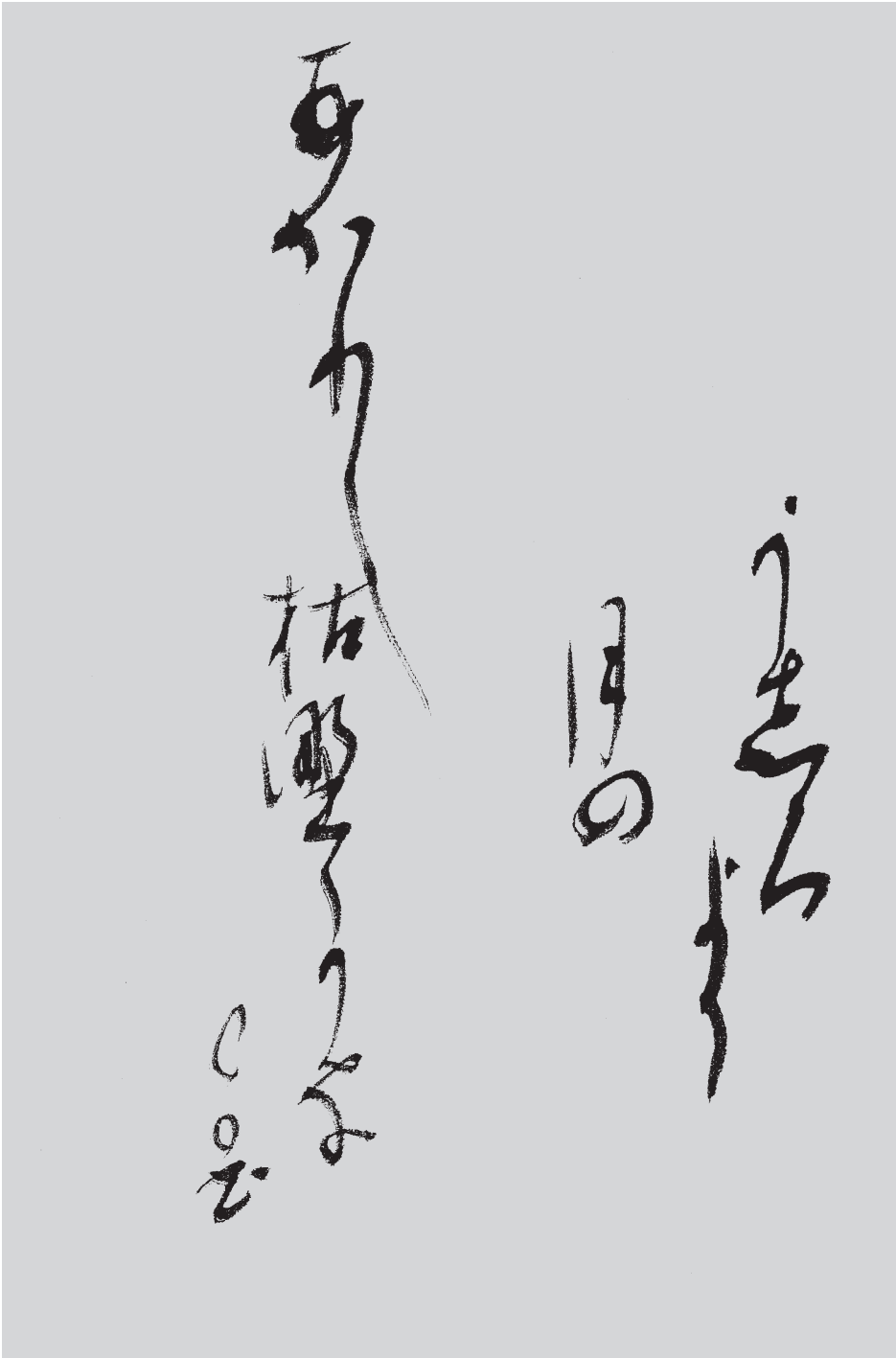
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。



平岡華雪先生書

後より月のあがりし枯野かな (文臺城)  
う志しろより月のあか利りし枯野かな可奈かな



〈細かい留意点にも〉  
右群、「う志ろ」に「より」を寄せ、「月」に「の」を右へ外して、余白に変

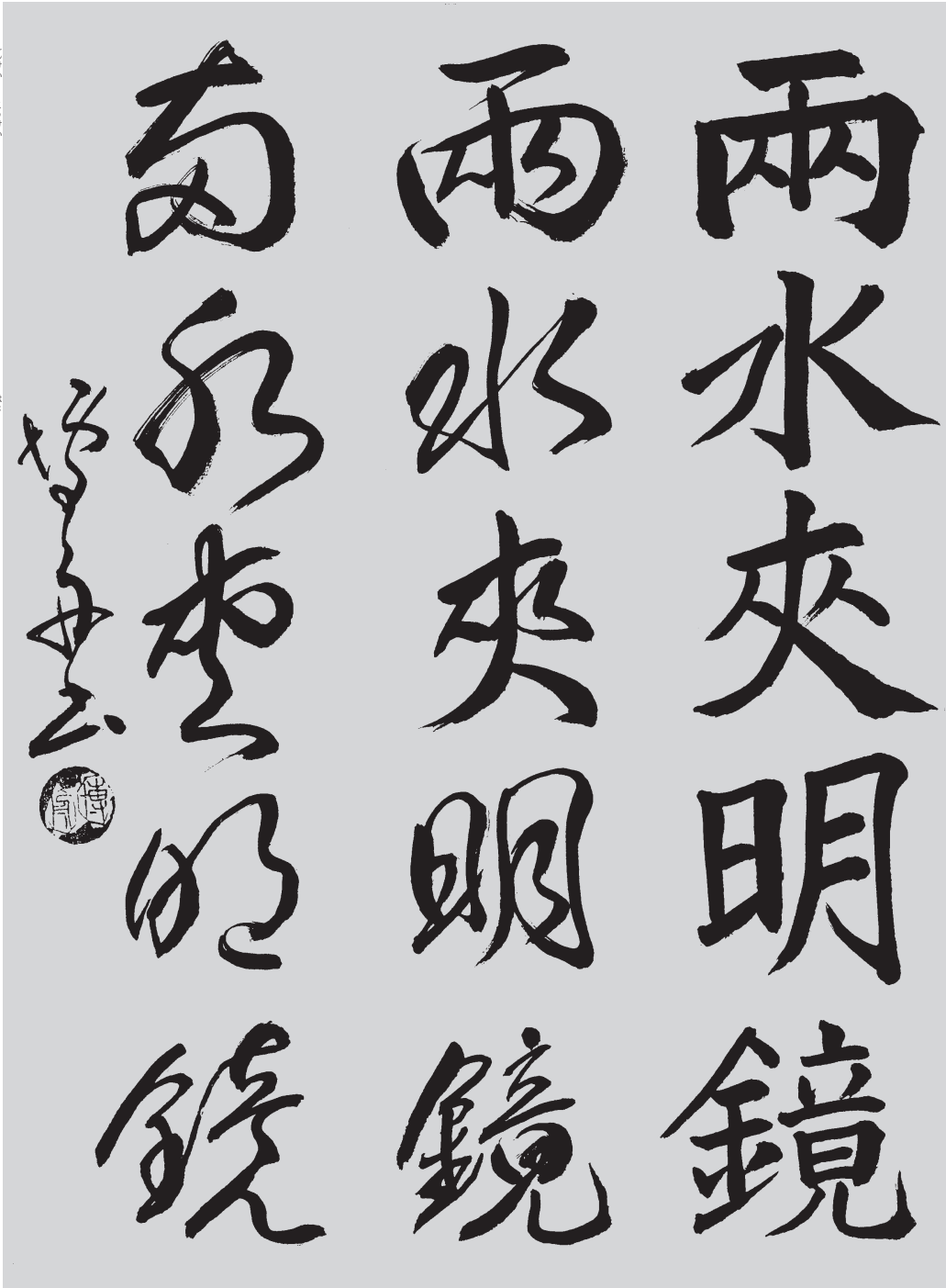
化を打ち出す。「う、よ」の一画目、この点は鋒先で軽く弾く感じ。「ろ」の横画は、「志」からの連綿で、心持ち鋒先を当てる用筆で軽快感を。左群、一般的には「あか利し」渴筆部分、「枯」で墨つき寄せて。落款の添え勝負どころ。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

北 沢 博 舟 先 生 書

兩水夾明鏡 (李白)  
りょうすいはさ めいきやう  
兩水夾みて明鏡のごとく



訳：宛溪・句溪の二すじの川は、このまちを夾んで明鏡のごとく輝き、

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

戸張丘邨先生書

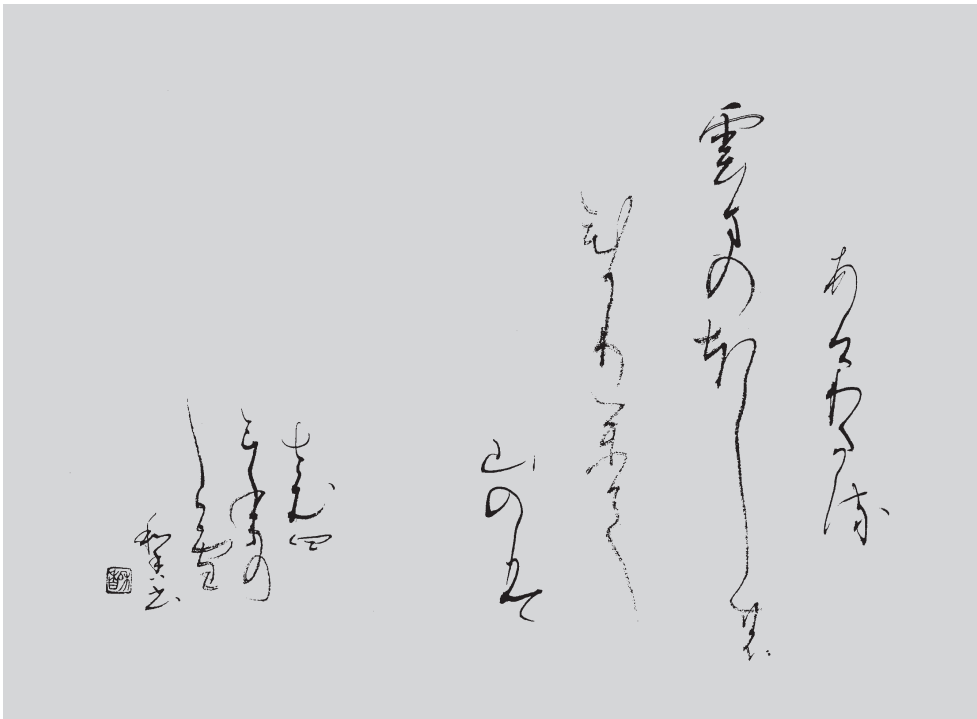
冬來幽興長(唐庚)  
冬來りて幽興長し。



訳：冬がきてから殊に物静かなる興趣が深い。

小林和香先生書

あけわたる雲間の星の光まで山の端さむし峰の白雪(新勅撰和歌集)  
あけわたる雲間の星の光まで山の端さむし峰の白雪  
あ介わ多流雲万の本し農飛可利萬氏山の盤さむ四三年のしら雪  
藤原家隆



1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

本当の旅の発見は新しい景色を  
見ることではなく、新しい視点を  
持つことにある。

男もすなる日記といふものを、女も  
してみむとて、するなり。そのの  
年の十二月の二十日余り一日の  
戌の時に門出す。

課題1 (初段階以上)

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。その年の十二月の二十日余り一日の日の、戌の時に門出す。

(土佐日記)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

本当の旅の発見は新しい景色を見ることではなく、新しい視点を持つことにある。

(マルセル・ブルーストのことば)